練馬区消防団運営委員会事務局
（練馬区危機管理室防災推進課）

令和８年度第１回練馬区消防団運営委員会議事要録

１　日時

令和８年８月２０日（木）１５時３０分から１７時００分まで

２　会場

練馬区役所本庁舎７階防災センター

３　委員長および委員の出欠状況

（１）　出席者

吉田委員長、小林委員、柴﨑委員、浅沼委員、國分委員、井上委員、白石委員、
池尻委員、ももかわ委員、吹田委員、大住委員、五十嵐委員、海野委員、
青柳委員、加藤委員、榎本委員

（２）　欠席者

かしま委員、上野委員

４　議事内容（要旨）

（１）開会

【事務局（練馬区危機管理室長）】

令和８年度第１回練馬区消防団運営委員会を開催する。

（２）委員長挨拶

（委員長の挨拶）

（３）議事

ア　諮問への検討について

【事務局（石神井消防署警防課長）】

（資料について説明）

練馬区内消防団員を対象に実施したアンケート結果、アンケート結果の分析、それに基づく課題及び強化方策（案）を説明。

【委員長】
ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

【委員】
ご説明ありがとうございました。
ちょっとご質問をさせていただきたいんですが。
こちらのＡ３のペーパーの資料にもありますが、まず、質問８のところですが、訓練を企画するために必要なことという項目のところで、これが企画立案のための対面教養という設問を設定されていると思うんですが、これは具体的にどういった内容を想定されているのか教えていただけますか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
訓練には、消火のための訓練、破壊訓練、人を助ける訓練等、様々なものがあります。消防署もそうですが、まず、訓練目的を定め、その訓練目的を達成するためにはどういった訓練が効果的かというものを、いろいろと考えながら訓練をつくっているところです。
消防団が団員構成に応じて柔軟に訓練を組み立てるのであれば、まず、訓練目的を定めるところから始め、その訓練目的を達成するためには、こういった資機材や場所さらにこういったものが必要であるといった訓練の組立て方を、実際に消防職員が消防団員に対して教える教養の場をつくりたいと考えています。

【委員】
ありがとうございます。消防職員の方から消防団員に向けたいろんなノウハウというか、そういった教養を対面で教えるということですね。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
そういうイメージとなります。

【委員】
ありがとうございます。よく分かりました。
あと、関連で、質問４のところ、何度か説明の中でも出てきたと思うのですが、行事の負担軽減というところがあります。
操法大会のあり方というところで、競技性から実効性へのシフトというところがあると思うんですが、これは、私も操法大会を拝見させていただいてはいるんですが、この実効性へのシフトというのは、これもまた具体的に、例えば、どういった内容を想定されているのか教えてください。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
まだ具体的なイメージはありませんが、実際の火災の際に、操法のような決まり決まった動きではなくて、いかに早く水を出して人を助けるのかというような実戦を想定した、実災害の教訓を踏まえた訓練にシフトしていければと考えています。

【委員】
ありがとうございます。
実際、このプロの現場とかではそういったシミュレーションのもとに訓練をされていたりというのもあって、先ほどの教養みたいな話もありますが、プロから見た実戦的な訓練みたいなものも通常やられているのを、団員のほうにもフィードバックするというか、伝えるみたいなのを何となくイメージしていればいいですね。
まだ具体的にはこれからということなので、いい取組だと思っていて、ぜひ続けていただければと思います。
それから、ちょっと細かいところで、質問５のところで、資機材の再検討というところがありますが、これも具体的に現状からどういったものに追加していくとか、組み替えていくみたいなのが、具体的に分かる範囲であれば、教えていただければと思います。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
まだ具体的なものはありません。事務局として、実際にどういったものが欲しいのかという具体的なアンケートを取る必要があるのかなと考えています。

【委員】
ありがとうございます。
そうですね、これから検討されることもあると思いますので、恐らく全体的に、リアルなシミュレーションを元にした、より実戦的なというところのコンセプトだと思いますので、有識者のいろいろなノウハウだとか、あとプロのノウハウも踏まえて、いいものにしていっていただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【委員】
ご説明ありがとうございます。また、まとめていただきましてありがとうございます。
何点か質問をさせてください。私自身も練馬消防団に所属しておりますので、その体験であったり、感じていること、また、諮問事項が、切迫する首都直下地震に備えと書いてありますので、首都直下地震が実際に起きてしまったらどうなるのかということが、可能な限り私の中で想定して質問できればと思うんですが。
まず、アンケートの質問、１０ページの１２のところに関係して、参集のところの不安

についてです。
首都直下地震が実際に起きたときに、どれだけの消防団員の方々が参集できるかというところの不安が大きい。これは、まさに私も感じているところであります。
その中で、各分団の団員数というのを、それぞれ消防署さんは把握をされていると思うんですが、平日の昼間、平日の夜間、土日の昼間、土日の夕方とか、それぞれのシチュエーションで、もちろんそれが完璧にそのとおりにいくかというのは分からないですが、どういう戦力を持っている人がどの瞬間にどれだけいるのかみたいなことは、把握されていたら申し訳ないんですが、そういったことが詳細に把握をされるということがすごく大事なのかなと、個人的には思っております。
ポンプ操作がこの人は可能だとか、この人は筒先が持てるとか、そういう経験豊富な人が必ずしも地元地域にその瞬間にいるとは限らないということの懸念を、すごくしておりまして、そのあたりも見解をお伺いしたいです。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
いつどこで地震が起きるか分かりませんので、消防署といたしましても、この時間にどれぐらいポンプ運用をできる団員がいるのか、正直把握しているところではございません。
ただ、いつ起きてもいいように、研修を通じて、可搬ポンプ等が操作できる団員を少しずつではありますが、育成し増やしているところです。
また、幹部研修等によりまして、指揮をとれる団員を育成しているところでございますので、どの瞬間においても、指揮を執れる団員がその分団を指揮できるような体制づくりには組織として取り組んでいるところです。

【委員】
ありがとうございます。
今のご回答に関連してだと思うんですが、１１ページのアンケート９に関してです。
強化方策案の中に、経験・階級別の実戦的な教育、段階的な教育体制であったり、訓練指導員の導入というところがあるんですが、まだまだ具体的に詰めるところも、これからのところもあると思うんですが、現状どうしても経験豊富で能力の高い方、指揮能力のある方というのが、どうしても固定されているという感覚を、私の分団では得ております。
その方が実際にいなかったときにどうするんだというところに、不安がものすごくあるという中で、私としては、その人が地元にいないかもしれないというときに、じゃ、少人数で、各団員が自分たちで、その地域、地域で考えて動くということで、悪い状況を想定した訓練みたいなのを、消防署さんとか、練馬消防団全体で各分団が集まってやる訓練もいいんですが、もっと各分団の中で詰めて、いろんなシチュエーションを想定してとやらないといけないんじゃないかと思っています。
それが訓練指導員の導入というところで、より効果的になればなと思うんですが、その

あたりの見解をいただきたいです。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
まさに委員のおっしゃるとおりでございます。
こちらの１６ページで、この基礎編、初級～中級編、上級編という形でつくらせていただきましたが、下の※印の箇所「各レベル到達を踏まえ上位の訓練を実施」の記載のとおり、基礎、初級編を終えれば上のレベルの訓練を行い、少しでも指揮の執れる人間を増やしていければと、事務局としては考えております。

【委員】
ありがとうございます。
いろいろそういった段階に応じた訓練を用意していただくというのと同時に、教育訓練になかなか参加ができないという団員も多いですので、消防団が参集をするというタイミングで、消防署員さんが来ていただいたり、訓練員さんが来ていただいたら、ちょっと難しいかもしれないですが、来ていただく際に、団員の誰がどんな能力を持っていて、何ができてというところを、ある程度把握をしていて、その上で、実際に、「じゃ、この人とこの人がいるということを想定してやってみよう」とかという、そういったことができればすごくいいなと、個人的には思っているので、ぜひ考えていただければと思います。
次に資機材の再検討のところで質問をしたいんですが、同じように、連絡が取れないとか、指揮を執る人が地元にいないということの不安が、調査の中でも出たと思うんですが、通信が使えなくなってしまい、無線等なら、もしかしたら使えるという状況になった時に、私の分団では、少なくとも副分団長以上だけが使えるという状況なんですが、これも、その分団の方が地元分団にいなかったら、どうやって連絡通信手段を取るんだということで、不安があるんですが、そのあたりの事実的認識を含めて教えてください。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
まさに、委員のおっしゃるとおりで、いろいろな不安はあります。
ただ、団員全員への無線機の配置は予算上なかなか難しい現実がありますので、各分団の無線機等を活用してやっていただくしかないと思っております。

【委員】
ありがとうございます。
ぜひ、この資機材の再検討のところで、検討いただきたいと思います。
もう一つ、補給体制の確立のところで、これは首都直下地震を見据えてということなので、私の中でイメージをすると、すぐに対応とか出動が終わらず、長期的になるということを想定しないといけないとなったときの、燃料であったり、水、食料、トイレ、電気の

あたりのものが十分なのかということが、補給体制の確立というところだと思うんですが、この答申書１８ページのところを見ると「検討」でとどまっています。ということは、具体的なものはまだこれからということだと思うんですが、このあたりのことは、すごく難しいと思いますが重要なことだと思いますので、形にしていただきたいというのと、道路が寸断されて行けないというケースもあると思うので、各分団が、手元にそういったものがしっかりと備蓄されているというのが、大事な状況なのかなと思うんですが、その見解を伺います。

【事務局（石神井消防署警防課長）】
それもご意見のとおりでございます。
災害対応が長期化しますと、消防署でもまだまだ十分な補給体制というのは確立されていないところですので、答申の中に「検討」という形で、具体的取組に入れさせていただいているところでございます。

【委員】
ありがとうございます。ぜひよろしくお願いいたします。
最後にさせていただきます。
より効果的な入団促進の検討と推進というのがあります。
人材不足というのは常に大きな課題でありますが、その中で、８ページの質問６のアンケートのところでは、ＳＮＳ発信強化というものが一番回答が多くなっています。
そのＳＮＳは今どういう体制でやっているのかというのが気になるところで、消防署さん内で、自前でやっているのか、それとも、人材確保が難しいという中ですから、民間のうまい人たちというか、プロの手を入れてやって、結果と効果を測定しているのかというのが気になるということ。
そして、もう一点が、質問６の回答の中では少ないんですが、私は手当とか処遇の改善というのが、すごく大きいところでもあるんじゃないかなという意見を、すごくいただくんですが、首都直下地震などで長期的に活動するとなった場合は、個人事業主だったら自分の仕事があるとか、まさに優先順位のところです。それが「自分だけこんなやらなきゃいけないのか」という感覚になると思うので、そういう処遇改善のところも考えていただきたいと思うんですが、その２点の見解を伺いたいと思います。
【事務局（石神井消防署警防課長）】
まさに委員のおっしゃるとおりです。
ＳＮＳ発信につきましては、各消防署のホームページに、「消防団の活動」等を紹介はしているところでございますが、積極的に各消防団がＳＮＳ発信しているという話は聞いてはおりません。
また、処遇改善等々の意見につきましては、やはり必要だと思いますので、より効果的

な入団促進の検討と推進という答申意見の中に、処遇改善も入れていきたいと考えてございます。

【委員】

いくつかお伺いしたいなと思っているんですが、災害時、消防団がどのように活動していくかというのは、災害が発災して、来られる人で、与られたものでできることをやるというのが、基本的大原則なのかなと、個人的には感じているところでもあります。

そういった中で、皆さんから、じゃ、より良い消防団にしていくためにアンケートを取って、答えが返ってきたというところかなと思うんですが、質問を読んで、この負担軽減方策というところの中で、１番に操法大会というところが上がってきているというのが、これは全国的にもそういう話があったり、国のほうでも取り上げられたりというところもあるのかなと思うんですが、ここについては、いろいろ賛否も分かれる部分があるのかなと思いますので、今日伺いたいのはそこではないんですが、そこの競技性から実効性へというところに書いてあるところは、私は大変必要なところなのかなと感じています。

練馬消防団でも、練馬城址公園で長距離の放水訓練を今やってみたりとか、なかなかできない訓練がここ数年導入されてきているなというところで、それこそ実効性であったり、災害時に本当に役に立つ訓練というところにシフトしているのかなと思うんですが、このアンケートの中でも、解体建物を利用した各種訓練というところが、質問３で２番手に上がりました。練馬でも、昨年、向山小学校を活用して、建替えになる校舎を利用した大規模な訓練を練馬消防団全体でやって、これは初めての試みであったと記憶しているんですが、もし、消防署で、これは練馬消防署になってしまうと思いますが、消防署で、訓練について、講評であったり、何かご意見があればぜひお伺いしたいなと思っているんですが、いかがでしょうか。

【事務局（練馬消防署警防課長）】

今、委員がおっしゃったとおり、消防署では、実戦的な訓練をやっていきたいと考えております。

これは、署員に対しても、団員に対しても必要なことであり、そういった訓練ができる場について、情報共有をしていきたいと思っております。

広く区内について、練馬消防署管内だけではなく、石神井、光が丘の管内についても、建替えや取壊しをする建物がありましたら、情報提供をいただきまして、共有し実戦的な訓練につなげていきたいと思っております。

【委員】

ありがとうございました。

本当に、１日だけの訓練だったんですが、消防団も、また警視庁も参加をしていただい

て、訓練できて、非常に良かったなと思っているんですが、今回初めてやった試みということで、大切なのはこれから区内でも改築をする公共施設がたくさんある中で、行政財産の最後の有効活用として、この消防の解体の訓練といったところで、利用していきたいなと思います。

またこれは、解体だけではなくて、複数日にわたってお借りする中で、真に消防がやりたい訓練というところをやれるような環境整備をしていくことが、区として必要だなと思っているんですが、区としてその辺どのように考えているか伺えますでしょうか。

【事務局（練馬区防災推進課長）】

昨年度、解体訓練を私も見学させていただきまして、「大変有意義だ」ということを、消防団の方から直接お伺いをしたところでございます。

向山小学校での訓練後、学校以外の区立施設も含めた今後の改築等の予定につきまして、練馬消防署からお問合わせもいただきましたので、情報提供させていただいているといったこともございます。

今後につきましても、そういった改築等の予定の機会を逃すことがないように、防災推進課から、区内３消防署を通じて、また団の方もご参加いただけるように、情報発信をしてまいりたいと考えております。

【委員】

ありがとうございます。

ぜひとも有効活用をして、消防の技術の向上につなげられるようなものにしていくためにも、区もご協力いただきたいなと思っているところです。

もう一つですが、このアンケートの中には、「効率的に運用するために必要だと思うこと」というところで、この必要資機材のこの再検討というのが、一番に上がっているところでもあります。

この団員の減少であったりとか、高齢化というところもある中で、この活動自体が省力化に資するようなこの装備の充実というものは、これは当然やっていかなければいけないことなのかなと感じております。

消防行政は、基本的には東京都が担うものではあると、私自身も認識しているところではありますが、練馬区を守っていただいているこの消防団であるからこそ、練馬区としてできることがあるんじゃないのかなと思っております。

他区の実情を見ても、区独自で支援をしているとかいったところもある中で、区長も、消防団は練馬区のパートナーであるというようなご認識をいただいているというところにおいて、やはり区として、今後そういった支援というものをぜひともご検討していただきたいなと思っておりますが、区の見解をお伺いします。

【事務局（練馬区防災推進課長）】
消防団の装備に関する今後の支援につきましても、消防団、消防署のご意見をいただきながら検討していくという考えでおります。
区議会の委員会でも答弁させていただきましたとおり、区にとって、消防団は重要なパートナーという認識を持ってございます。
これまでも、団に対する補助金や入団促進のための区報等の掲載など、様々な、区としてできる支援をさせていただいたところでございます。
そういった補助につきましても、今後も継続してやっていくというところと、装備に関しましても、毎年ということではございませんが、過去に支給をさせていただいたといったところもございます。
装備につきましては、基本的に東京消防庁、東京都のほうで、まず基本となる装備を配備していくという考え方があり、消防との調整が必要なものと考えておりますので、そういった調整を図りながら進めていきたいと考えています。

【委員】
課長がおっしゃるとおり、東京都が基本的にはやるというのは、もう私も十分理解をしているところです。
ただ、この２３特別区の中でも地域事情が、水害に弱い地域であったりとか、木造密集の地域であったり、様々地域特性がある中で、そこを知っているのは東京都よりも、基礎自治体である練馬区なのかなと思っております。
ですので、そこの痒いところに手が届くというか、この練馬区の実情に合った、そしてまた真に必要な装備というところを、今後、区としても、パートナーである消防団にしっかりと支援をしていただきたいと感じておりますので、ぜひそこは要望させていただきたいなと思っております。

【委員】
質問４のことで１点お伺いしたいんですが、この操法大会の競技性から実効性へのシフトの件です。
今回の設問としては、操法大会の競技性から実効性へのシフトというところについての、是非という部分の中で、これだけ多くの方々が必要だという形のご意見があったかと思うんですが、この実効性という部分について、そもそも、実効性というのがどういうものを指すのかということについては、これからまさにご検討されるということになるのかと思います。その中で、現場の声というのはすごく大事だと思うので、改めて団員の皆様方にアンケートを取るということはなかなか難しいかもしれないですが、この実効性という部分をどう担保していくのかという点について、例えば、各消防団の幹部の方々と顔をつき合わせて様々な意見交換する場ということが、今後考えられるのかどうかということが１

点と、あとは、今は競技性というところに非常に重きが置かれているのかなという印象を受ける中で、それぞれの自治体の消防団が操法大会を運営し、また、年１回の都大会が運営されているという状況になると、例えば、競技性から実効性という形に転換していった場合には、そもそも、都大会のあり方とかいうことにも多分影響が及ぶんだろうなと思います。

そういうことを考えると、今回、知事の諮問に当たって、この実効性という部分をより具体的に、明確に、この運営委員会として答申をするとなったときに、抜本的に東京都も変えていかなければいけないというぐらいのところに踏み込んだ形の諮問を、ご検討されるのかどうか、この２点を教えていただけますでしょうか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

今回のアンケートは、消防団員が何を求めているのかというものを把握するという趣旨で行わせていただきました。今、全国的に議論されているところですが、操法大会のあり方というものについて、今回、練馬区内消防団員からは、「実効性へのシフト」が意見の１位という結果になったところです。

ですが、都大会もございますし、また全国大会もございますので、１つの区の意見だけでは、いきなり変化というのは難しいと思います。「地元の消防団はこういうことを考えていますよ」という、「施策に対する一つの意見として検討してください」という形で、今回、答申に上げてみてもいいのかなと、事務局としては考えてございます。

【委員】

ありがとうございます。

あと、これは質問というか要望なんですが、負担軽減を様々図っていく中で、資機材を充実させていくとか、消防団が活動しやすくするようなバックボーンをしっかり整えていくということも、検討されるようになってくるようになるかと思うんですが、実は、ある消防団の方から、そもそも訓練をする場所の確保という部分に、非常に苦労されているというご相談をいただいたことがあります。

そうした中で、今後まさに実効性を高めていこうという形になると、その実効性のある訓練ができるような場所の確保ということも、多分必要になっていくということもあろうかと思います。

ですので、こうした答申の中においても、特段、各消防団、分団になるかと思いますが、訓練をしていく中にあって、訓練場所の確保という点についても、様々支援ができるような、サポートできるような体制という部分も、ぜひご検討いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

私も、消防団に関わりながら、この消防団運営委員会にも連続して参加させていただいていく中で、今回アンケートが結果として見えてきたということで、非常に苦労されたことを分かっておりますので、ありがとうございました。

その中で、質問というよりも、質問項目とは別の、その他の意見というところにかなり感じるところがあります。

質問２の意見で、中長期的な視点においても、署隊だけではなく町会、自治会と、避難拠点と連携していきたい。そして、質問７の意見でも、地域住民との日頃の交流が必要と感じている。質問９の意見の中では、街をあげて避難訓練をしたいという意見が上がっています。関わっている人間の、地域との関わりがなかなかできていないとの不安の声かなと思われ、今後重要かなと思っております。

確かに、団員を増やすことはいいんですが、これから震災が起きるかもしれない現状の中で、何をすべきか、というときに、すごく気になりましたのが、１５ページ第６の課題の中で、「消防署と消防団の連携を強化するべき」という点が入っています。消防署員の方は現場で災害が起きたときは大変だと思うんですね。そのときに、署の方は署ですごく動かなくてはならないところと、地域に根付いている消防団が地域で分かっている部分で、地域と連携して動くというところがあると思います。

この間の熊本の地震のときのニュースでも、地域の方が自主的に救助し合っていくという姿を見るときに、署の方の動き方と、地域に根付いた消防団と、あと地域の町会とか連携するというのは、自然にごく行われるすごく有意義な力だと思っているので、アンケートが出たときに、「もう少し地域と関わりたい」という声が上がったのかなと思いました。

それで、一番そこを分かっているのが、練馬区の行政サイドの、町会の方の地域推進課だったり、いろいろ共同推進とかいろいろあると思うんですが、その中の連携を本当は今後密にしていかないといけないと思います。

消防署員の方の動きは、私たち消防団はよく分かっている部分があるんですが、今度は消防団が地域とどう連携するかというちょっと弱いところが、このアンケートの中で出てきたのかなと思っておりますので、そこの視点の部分の具体的な取組に、もう少し具体性の部署が入った方が分かりやすくなり答申としていいのかなと思いました。

それと、１７ページの、「さらに消防署だけでなく区役所・・・」という記載が具体的取組の上に２行あります。これは区のほうにも伺いたいんですが、避難拠点運営連絡会の組織ができていることもありますし、協定団体さんとの協定関係というのも、非常に今後重要かと思っているんですが、そこのところに少し強きを置いた文章が、ここの練馬区から独自で文章化してもよろしいかと思うんですが、その点は、区なのか消防署関係なのか分からないんですが、区が持っている情報として、協定団体との連携、協定といったものが結ばれているということを、もう少し署だったり消防団だったなりに情報提供してもよろしいかと思いますがどのような形になっていますでしょうか。

【事務局（練馬区防災推進課長）】
ご案内いただきましたように、避難拠点のほうでは、地域の方、協定を結んでいる企業も含めて、様々な方に関わっていただくということで、区のほうでやっているところでございます。
直接的に消防団の方とそこをつなぐみたいな仕組みというわけではないですが、消防団の方も、もともと地域の方ではいらっしゃいますので、現状としては、そういった消防団の方も、避難拠点に関わりを持っていただくことで、つながりができているといったような状況かと思ってございます。
今回の方策案のところにつきましては、例えば、「消防署と消防団の連携を強化するべき」となっておりますが、例えば、ここに、消防署、団だけではなくて、「消防署、団、区も含めて連携を強化するべき」というような形で整理をしていくという方法も、一つあるのかと考えております。

【委員】
ありがとうございました。
私は、区議会議員として、いろいろ区の情報が分かる側として分かり得ているんですが、消防団からすると、そういうことはなかなか、どのくらいのペースで、どのくらいの関係性で、自分たちが発災が起きたときに何かしなければいけなくなったときの、何が必要で何がどこに情報があるかというところに不安があることを、払拭していく仕組みというのはすごく今後重要かと思いました。
ですので、まさに、「関係機関との合同防災訓練の推進」とか、ずっと大きな言葉になっているんですが、今みたいに具体的な言葉にしていくと、より深い意味でこのアンケートの意味も出てくるかと感じましたので、意見させていただきました。

（４）　代表消防団長挨拶
【石神井消防団長】
（消防団代表挨拶）

（５）　事務連絡
【事務局（石神井消防署）】
（事務連絡）

（６）　閉会
【事務局（練馬区危機管理室長）】
以上で本日の消防団運営委員会を終了する。

（了）